

2007年度に終了したプロジェクト

2007年度は3つのプロジェクトが当初目標を達成し、支援を終了しました。「中国・温帯林・パンダ生息域回復プロジェクト」は、四川省臥龍自然保護区近郊で農地開墾のため小さく分断されてしまった森林の回復活動で、2001年から支援してきた結果、住民の生活安定と野生生物との共存が定着し始めました。「バングラデシュ・さとやまの復元プロジェクト」は、植林や育苗などの仕事を提供するとともに貧困層の生活安定のための教育を進める活動です。1999年からの支援により、同国南部に11の学校を設立し、初等教育と持続可能な漁業・農業の教育を行っています。「スリランカ・世界遺産地域の森林保全と復元プロジェクト」は、森林の農地化で絶滅の危機にある同国西部の野生生物の生息域回復と住民の生活安定を目指した活動で、2000年からの支援により森林回復と住民の持続可能な森林利用が進みました。

2007年度から開始したプロジェクト

2007年度「中国・雲南省麗江市・三江併流の森林生態系保全プロジェクト」と「ブラジル・バイア州・大西洋岸低地熱帯林ボアノバにおける森林復元プロジェクト」に対して支援を始めることを決定しました。長江、メコン、サロウインの3つの大河が並行して流れる三江併流は、山河の絶景と希少動植物が見られる世界自然遺産ですが、密猟と違法伐採、過度の放牧などが生物多様性を脅かして



中国・雲南省麗江市・三江併流地域

います。アジア緑色文化国際交流促進会によるこの現地プロジェクトは、生物多様性の豊かな自然を次世代に残すための活動を行っています。ブラジル・バイア州では、かつて大西洋沿岸一帯に広がっていた熱帯雨林の面積が違法伐採、プランテーション、焼畑、過放牧などともなう破壊により最大時の7%程度に減少しています。バードライフアジアによる現地プロジェクトは、森林農法により住民が森林と共生できる循環型社会の実現を目指します。

ガーナ・熱帯雨林回復プロジェクト

世界第2位のカカオ生産国であるガーナ共和国。カカオは、熱帯林を切り開いて栽培を行い、数年して土地がやせると他の場所へ移動するという繰り返しを行ってききましたが、近年の人口増加の影響もあり、各地で森林は大幅に伐採され、熱帯林は各地で分断され小規

模化しています。コンサベーション・インターナショナル(CI)は、カカオ栽培による「熱帯雨林回復プロジェクト」を開始し、リコーは2002年からこの活動を支援しています。原生林の外縁部で、木陰でもよく育つカカオを有機的な栽培農法で育て、原生林の環境を維持しながら農業を成り立たせながら、現地コミュニティの農民たちの収入向上と生活安定を図っています。森林の伐採によらないこの栽培方法は収穫増加の成果をあげており、コミュニティの発展につながってきています。



カカオの収穫が最大8倍に増加

TOPIC

リコー地球環境月間シンポジウム
「持続可能な社会を共創するために」
(第2回)企業活動と、生態系・生物多様性保全の両立を目指して

企業活動と生物多様性保全の両立を
考える会合に、企業、NPOなどから
204人が参加



参加者：計204人
(企業122、NPO27、行政12、リコーグループ43)

2007年6月「第2回リコー地球環境月間シンポジウム」を開催しました。今回の主旨は、企業の経済活動と生物多様性とがいかに関わっているか、また、企業は生物多様性にどう取り組んでいくべきかを探るもので、会場の日本科学未来館の毛利衛館長による「地球生命としての人類の責任」の特別メッセージから始まり、企業、NPOの方々による講演や熱心な意見交換が行われました。参加した皆様からは「第1回に比べて企業の皆さんが一段と熱心であることを感じた(NPO)」「トップが代わっても揺るがない生物多様性の方針を社内で構築できるかを考えるきっかけになった(企業)」などの感想をいただきました。